

春の交通安全健民運動

5月11日(木)～5月20日(土)

思いやり みんなで すすめる 交通安全

重点目標

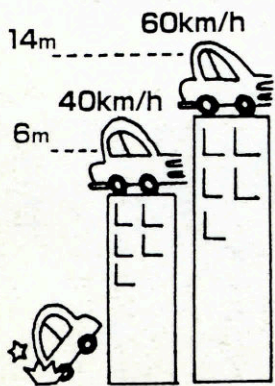
- ①シートベルト着用の徹底
カチッとベルト
キチッとルール
- ②子どもと高齢者の
交通事故防止
おうだんほどう
とまったくるまに
ありがとう
- ③「スピードダウン運動」
の徹底
知っていて
守っていない
交通ルール

シートベルト 着用の推進

「交通事故? 私は大丈夫」「ちょっと近くまでだから」と、シートベルトをしないで車を運転している人が多いのではないのでしょうか。ところが、自動車乗車中の事故で亡くなっている人の七〇%以上は、シートベルトを着用していなかった人たちです。また、運転をしなければじめてからほんのわずかの時間に事故に遭っているのです。この人たちがもし、シートベルトをしていれば、約四割が助かったというデータさえあります。



シートベルトあり
シートベルトなし



車が固定壁に衝突したときに受ける衝撃は、時速四十キロメートルで車を運転していた場合、約六メートルの高さから落ちたのと同じくらいだといわれています。この衝撃力は、体重の約三十倍。六十キログラムの人で約一・六トンにもなります。

人間が耐えることのできる衝撃力は両腕で五十キログラム、両足で百キログラム、これを衝突速度にすると、わずか時速七キロメートルです。これ以上のスピードで衝突した場合は、いくら腕力に自信がある人でも耐えることはできないのです。

人間が受ける衝撃は、ハンドルやフロントガラス、フロントパネルなどに、頭や体をおつける二次衝突によって起きます。衝突すれば車は停止しますが、人間は慣性で前方に移動してしまいかからず。この間わずか〇・〇二秒、人間のまばたきでさえ〇・二秒かかりますのでどうすることもできません。シートベルトはこの衝撃を〇・〇一秒で感じ、二次衝突を防いでくれます。

写真を見れば明らかのように、シートベルト着用の有無の結果は歴然としています。